

『少年の日の思い出』 ディベート～反対尋問と最終弁論～

ディベート論題A「エーメール側」

〈事前に用意したエーメール側から僕側への質問〉

- 「僕」が蝶を運び出すときに、もっとまじな運び方をしていれば、蝶はつぶれずに済んだのではないのでしょうか。
- エーメールが「僕」にこっぴどい批評をしたのは、せっかく捕まえた蝶なのだから、もっと丁寧に展翅をしてほしいと思っていたからなのではないのでしょうか。
- 先ほど、「僕には情熱」と言いましたが、情熱だけで蝶の収集家をやっているのでしょうか。
- 「僕」はただ単に蝶を捕まえているだけじゃないのですか。それに関してどうでしょうか。
- 本当に蝶を想うなら破れた羽もそのままにせず、つぎ合わせたりしませんか。それができないのならエーメールにやってもらうだのやり方を教えてもらえばいいのではありませんか。それに関してどうでしょうか。

〈事前に用意したエーメール側の最終弁論〉

エーメールの収集は、小さく貧弱と書いてありますが、彼の収集はこぎれいで手入れが正確で、それはまるで一つの宝石みたいだったと書いてあります。エーメールは、僕の収集が丁寧ではなく、せっかく捕まえた蝶なのだから、丁寧な展翅をしてほしいと思ってそういう批評をしたのだと思います。

それにエーメールが収集家として優れているから、そういう批評ができるのだと思います。確かにエーメールの僕に対する批評はこっぴどかったかもしれませんが、それは僕にいい収集家になってもらいたいという気持ちがあるからだだと思います。

僕はエーメールが大切にしてきた蝶を盗んだあげくに潰してしまいました。僕に収集家としてのプライドがあるならばエーメールの部屋から蝶を盗んだりしないと思います。収集家としてプライドというものは大切だと思います。以上の内容をもってエーメール側の最終弁論を終わります。

ディベート論題A「僕側」

〈事前に用意した僕側からエーメール側への質問〉

- エーメールは、僕が「自分の蝶を全部あげる」と言ったのに受け取らないのは、蝶が好きなわけではないからではないですか。
- エーメールは、きれいな標本を作るのが好きなだけであって、蝶が好きなのではないのでしょうか。
- エーメールは、珍しいものが好きなだけで、蝶でなくてもカブトムシやカマキリでもいいのではないですか。
- 蝶の標本を「いくらになる」とねぶみするくらいだから、とても蝶が好きだとは思えませんが、どうでしょうか。

〈事前に用意した僕側の最終弁論〉

これから僕グループの最終弁論を始めます。たしかに僕は盗みというやってはいけないことをしました。しかし、エーメールの家で誰かが下の方から上がってくるのを聞いたとき、僕の良心が目覚めたと書いてあります。しっかりと自分は盗みをしてしまった。とても下劣なやつだと気がついていました。そして、僕はこの蝶をもっていることはできない、もってはいられない、元に戻しておかなければならないとも悟っています。それから僕は家に帰ってから事件の一切を母親に伝えていきます。それに、最初はとまどっていましたが、エーメールにきちんと謝ろうとする勇気を起こしています。そしてもう一つ、最後に「一度起きたことは、もう償いのできないものだということをも悟っているのです。

このように、僕は盗みというものがとても悪いことだと何回も何回も悟っているのです。母に一切を打ち明けたときや、エーメールに謝ろうと家まで行った僕の勇気はとてもすごいと思います。以上の内容をもって僕側の最終弁論を終わります。